

呉 雨 提出 学位申請論文

『ビジネス日本語における副詞の研究』 審査報告

### 論文の内容の要旨

本論文は、ビジネス日本語に関わる各種資料における副詞の実態調査を中心に、日中対照研究・中国人日本語学習者の視点を併せて分析し、その特質を考察した研究である。本論文は序章、第Ⅰ部「ビジネス日本語の文章語資料における副詞」、第Ⅱ部「ビジネス日本語の会話資料における副詞」、第Ⅲ部「対照研究、学習状況の視点から見たビジネス日本語の副詞」、終章によって構成されている。

序章ではビジネス日本語における副詞を研究する必要性を述べ、本論文における副詞の分類として、従来の「情態、程度、陳述」の3分類に加え、工藤浩（2016）による陳述副詞の分類方法に従うと規定している。

第Ⅰ部は第1章「ビジネス文書における副詞の使用－配慮表現の視点から－」、第2章「企業広報誌における副詞の使用状況」、第3章「ビジネスに関わる法律の条文における副詞」の3章で構成されている。第1章では、ビジネス文書のマニュアル本と教科書を調査して、副詞の異なり語数は159語、延べ語数は3156語であり、副詞の分類別に見ると異なり語数・延べ語数ともに時間副詞が最も多いことを指摘している。他の分野の資料と比べて、ビジネス文書では相手に配慮する機能を持つ「ますます」「誠に」の使用が特徴的であり、口語的な副詞は現れにくいこ

とも明らかにしている。また、配慮表現の視点から「ますます（益々）」のような副詞はビジネス文書の前文で挨拶文などの慣用的表現として多く用いられ、「何卒（何とぞ・なにとぞ）」「どうぞ」「ぜひ（是非）」などは依頼などの場面に出現し、「誠に（まことに）」「大変」は、相手に配慮する際の改まった表現として多用され、「取り急ぎ（とり急ぎ）」「まずは」は末文に出現し、挨拶を省略して文書の締めくくりを表す副詞であると指摘している。第2章では、企業広報誌において、様態副詞の異なり語数が最も多く種類が豊富であり、程度副詞の延べ語数が上位で使用頻度が高く、「かつて」「より」「大変」「たとえば」「ぜひ」「約」「そう」が多く使用されていることを指摘している。ビジネス文書と比較して企業広報誌における様態副詞は語の種類と使用頻度が圧倒的に多く、「こう」「そう」「しっかり」「とても」のような話し言葉的な副詞が出現しやすいことも明らかにしている。特徴的な副詞として「約」が最も多く、「およそ」よりも用いられやすい傾向が見られ、「ゆったり」は「座る」に関わる表現と共起して運輸業や椅子を扱う小売業の企業広報誌での使用が特徴的であり、時間副詞の「すぐ」より「すぐに」の用例数が比較的多いことを指摘している。第3章では、ビジネスに関わる会社法、商法、労働法において法令用語として特定の意味合いを持つ副詞を分析して、最も多く現れるのは「なお（仍）」であり、会話・文書などで用いられやすい感情を表す副詞は法律の条文で出現しにくい傾向を指摘している。また、法律の条文では、「なお（仍）」は「なお従前の例による」、「当分」は「当分の間」の形で多く出現し、「現に」は「すでに」と区別

する必要があり、「直ちに」は「速やかに」などよりも即時性が強く、「あらかじめ」は単なる「事前に」を表す場合と当為表現と共起する場合があります、「あまねく」と「もとより」の用例は少ないがともに硬い文章語として法律の条文における特徴的な副詞であると指摘している。

第Ⅱ部は、第4章「職場の会話における副詞—「職場談話コーパス」を調査資料として—」、第5章「ビジネス場면을反映するテレビドラマにおける副詞—『わたし、定時で帰ります』を調査資料として—」、第6章「会議における副詞の使用実態—国会会議録を資料として—」の3章で構成されている。第4章では、「職場談話コーパス」を調査して職場談話で使用される副詞は口語的なものが中心であり、ビジネス文書や新聞、雑誌などの分野における硬い表現と明らかに異なり、副詞の重複、倒置などの表現が多く見られ、擬音語・擬態語の副詞、方言の副詞の使用も特徴的であると指摘している。また、ビジネス文書における副詞と比較して、「職場談話コーパス」では、相手を勧誘する際に「ぜひ」は「いらしてください」のような口語的な表現と共起し、「どうぞ」は依頼の場面以外に、相手の行動に対して承諾する場面でも使用され、「早速」は先方以外に自分たちの行動に関わる場合でも用いられ、「大変」は相手に配慮する意味ではなく単なる程度を表す用法もあるというビジネス文書では見られない特徴を指摘している。第5章では、ビジネス場面を描いたテレビドラマ『わたし、定時で帰ります』においては職場の談話場面で使用される様態副詞の異なり語数が多いが、延べ語数から見ると叙法副詞と時間副詞が多く用いられることを明らかにしている。また、

指示語由来の「こう」「そう」「ああ」「どう」の多用、内心情報処理を表示する「まあ」は雰囲気や和らげる機能を持ち、多義性を持つ「よく」は程度副詞としての用法が基本的で「わかる」と共起する例が多いと指摘している。第6章では、公的場面での発話の資料として国会会議録を調査して、様態副詞の異なり語数が多く、時間副詞は延べ語数が多いと指摘している。また、国会会議録では「直ちに」は当為表現「べきだ」と共起し、「決して」「到底」「断じて」は「許してはならない」のような「不許可」表現と共起する傾向を指摘している。

第Ⅲ部は、第7章「日中のビジネス文書における副詞の対照研究」、第8章「中国人日本語学習者による依頼場面における副詞の使用—依頼メールを調査資料に一」の2章で構成されている。第7章では、日中のビジネス文書における副詞を対照している。日中の品詞体系は異なっており、特に副詞の下位分類は互いに対応しないため、ビジネス文書における副詞の日中対照研究が難しいと指摘した上で5冊の中国語のビジネス文書の文例集を調査した結果、時間を表す副詞が最も多く、「否定副詞」の“没有”、「可能性副詞」の“是否”のような中国語特有の副詞が日本語の副詞とは対応しないこと、日中の文化の違いにより相手への配慮の表し方は異なるが話し言葉的な副詞が使用されやすい点が共通していると指摘している。第8章では、中国人学習者による依頼場面の副詞の使用状況について『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』(I-JAS)における依頼メールの作文データを資料とし、日本語母語話者のデータと比べながら、中国人学習者による副詞の使用の特徴を明らかにしている。

中国人学習者は「様態副詞」「時間副詞」「とりたて副詞」を多く使用するのに対し、日本語母語話者は「叙法副詞」の使用が多いことを明らかにしている。また、「まだ」を「また」、「必ず」を「きっと」、「どうぞ」を「どうも」にするなどの誤用を指摘している。

終章では、本論文における分析をまとめ、副詞とビジネス日本語の関わりを視野に入れることは今後の副詞の研究、ビジネス日本語の研究において重要であり、ビジネス日本語における副詞の研究が多言語対照研究、ビジネス日本語教育に関する分野に貢献する可能性を示している。

#### 論文審査の結果の要旨

本論文は、ビジネス日本語における副詞について、ビジネス文書・企業広報誌・ビジネス関連の法律の条文などの文章語資料、および職場の談話コーパス・テレビドラマ・国会会議録などの会話資料における使用実態を解明するとともに、日中のビジネス文書・中国人学習者による依頼メールを資料とした対照研究に互って検討している。従来ほとんど研究されなかったビジネス日本語としての副詞の実態を解明し、日本語学習者のビジネス日本語の習得に大きく貢献する成果を挙げており、高く評価することができる。

序章では、先行研究を概観し、本論文における術語の規定を行ない、副詞の「呼応」ではなく「共起」を用いる理由を示している。

第 I 部のビジネス日本語の文章語資料のうち、第 1 章では、ビジネス

文書の文例集における副詞の使用状況が詳細に示され、ビジネス文書に特徴的な副詞の傾向が明らかにされている点が評価できる。社外文書と社内文書とにおける副詞の使用状況の相違、およびビジネス文書が文語体で作成されていた時代から口語体のビジネス文書に引き継がれた副詞語彙の史的変遷の視点からの考察は今後の課題であろう。副詞の分類別に表に掲げてある「ゆっくり」「あらためて」などの所属については再考の余地があり、認定の基準を示した上で分類し、いずれにも所属させ難い語には別に欄を設けるなどの措置も一つの工夫である。第2章では、文例集とは異なり実際の企業による経済活動の一環として編集されているかつ企業ホームページに公開されているため言語資料として利用できる8つの業界の企業広報誌における副詞の使用状況の分析であり、現実の言語資料であるだけに貴重な言語状況を解明しているといえる。様態副詞が多いとする指摘が企業広報誌特有の傾向といえるか否かについては、さらに異なるジャンルの広報誌における傾向を踏まえて考察することでより明快に企業広報誌特有の傾向を見出す可能性がある。第3章ではビジネスに関わる会社法、商法、労働法における副詞の傾向を分析して法律の条文に特有の「なお」「当分」「現に」「直ちに」「あらかじめ」「あまねく」などについて考察しており、日本語学の分野からの先行研究が少ない分野であるだけに斬新な研究であるといえる。

第Ⅱ部のビジネス日本語の会話資料のうち、第4章では、「職場談話コーパス」を用いた職場の会話における副詞の分析であり、第Ⅰ部における文章語資料との相違を指摘する一方で、談話資料のなかでビジネス

日本語に特有の傾向が見出しがたいが、方言の副詞として掲げる関西の方言の「よう」の例は、日本全国のビジネスの現場の会話で実際に方言の副詞が行われている可能性を示すものといえる。また、ビジネス文書で「早速」に先方と当方の対応の例があるのに対して、職場の談話では当方の用例のみとする指摘はビジネスの現場における特徴をよく反映していると考えられるが、社外文書に対応する商談のような外向けのビジネス談話資料で利用可能なものがあるか、個人情報と企業秘密の制約で困難ではあるが今後とも資料の探求を重ねることが望まれる。第5章では、ビジネス日本語教育における会話の教材としても利用価値が認められるテレビドラマのうち、2019年に放映された『わたし、定時で帰ります』を調査資料としており、現代日本の企業・社会の働き方の意識を反映して日本語学習者にも関心の高いテレビドラマにおける副詞の使用状況が解明されたものとして評価することができる。第6章では、これも企業における現実の会議は資料として利用するのは困難であるため、公開されていて利用可能な会議における日本語の資料となる国会会議録における副詞の使用実態の調査によって、ことに「直ちに」と当為表現との共起、「決して」「到底」「断じて」と禁止表現との共起が明快に指摘されているが、政治家にとって公開を意識した会議である点にも留意すべきである。

第Ⅲ部では、日本語と中国語のビジネス文書・メールを資料とした対照研究と誤用分析であり、特に第6章は日中のビジネス文書の文例集における副詞の実態を調査した先行研究がほとんど行われてこなかった未

開拓の新分野に踏み込んだ研究である。日本語と中国語の品詞体系・副詞の下位分類が異なるため分析が容易ではないとするが、そうであれば新たなより合理的な基準を自ら設けて解決することが俟たれる。第7章では、中国人日本語学習者の作文コーパスを用いた副詞の分析であり、ことに学習者の副詞の使用状況が解明されているが、誤用例が多い「どうも」「きっと」などについては、個別的にさらに誤用の原因を解明すれば学習者にとって一層有益な考察となると思われる。本論文全体を通じて、資料的にはビジネス文書とビジネスに関わる言語資料とにおける副詞の実態の解明が研究の中心となっており、これによって明らかになる特にビジネスに特化した副詞の特質の解明が今後の課題として期待される。

本論文は以上のように再考を要すべき点も含まれるが、それ以上に第I部・第II部・第III部に亘る意欲的な調査と精密な考察によってビジネス日本語における副詞の特質が解明された研究として高く評価することができる。

よって、本論文の提出者、呉雨は、博士（文学）の学位を授与せられる資格があるものと認められる。

令和2年12月3日

|    |         |         |   |
|----|---------|---------|---|
| 主査 | 國學院大學教授 | 諸 星 美智直 | ㊟ |
| 副査 | 國學院大學教授 | 菊 地 康 人 | ㊟ |
| 副査 | 國學院大學教授 | 小 田 勝   | ㊟ |

呉 雨 学力確認の結果の要旨

下記三名が各専門分野からそれぞれ学力確認の試験を行った結果、  
博士（文学）の学位を授与される学力があることを確認した。

令和2年12月3日

学力確認担当者

主査 國學院大學教授 諸 星 美智直 ㊟

副査 國學院大學教授 菊 地 康 人 ㊟

副査 國學院大學教授 小 田 勝 ㊟